



はじめのいっぽ

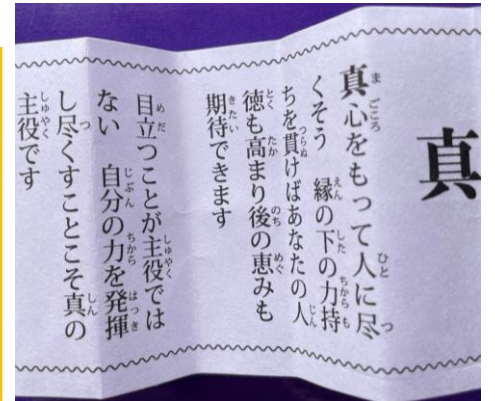
令和4年度
9月号

令和4年8月31日
認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ・庁舎内
江川 永里子

自分達でコロナ対策をしながら「前」に進むと言う、行動規制がない状況になりました。BA5 という株は子どもから大人への感染が多く、1～3日以内に感染するという特徴があります。体調を整えながら心地良い「秋」の季節を迎えたいと思います。

小出義雄（高橋尚子など数々のメダリストを育てた監督）

自分だけ勝てばいいというのでは一流にはなれない。
人間、嫉妬しているうちは本当の福は回ってこない。
たとえライバルだとしても、人の喜びを「よかったね」と心から喜んであげて
「私も頑張るね」と発奮材に出来る人じゃないと伸びない。



10月9日（日）第14回運動会のテーマは「～広がり～」です。人は一人では生きていけません。応援してくれる人が一人でも多く居てくれることが大切です。



～ アドラー より ～

みたび勇気づけ

1, 子どもを理解しよう

「子どもを理解する」というのは、子どもの言うなりになることではなくて、起こった出来事について、子どもがどんな風に理解し、どんな風に感情をもち、どうしていこうとしているのかを、よく話を聴いてわかってあげることです。親が話を真剣に聴くと、「親は私の仲間だ」と感じるでしょう。忙しいときなどに話しかけてくるのは、あるいは不適切な行動でもって注目を引こうとしているのかもしれません。しかし、そんな場合でも、仕事の手を止めて、真正面から子どもに向き合ってみてはどうでしょうか。

2, 冷静に話し合おう

あなたが感情的になっていても、子どもが感情的になっていても、子どもを勇気づけることはできません。そういうときには、両方の感情がおさまるまで、話し合うのを先へのばしましょう。両方が落ち着いてから、ゆっくりと話し合えばいいのです。

3, 子ども自身に考えてもらおう

子どもの人生について、できるだけ子ども自身が考えて決めてほしいと思われませんか？だって、それが「自立する」ということです。そのためには、子どもが失敗したときや間違いを犯したとき、親が指示するのではなく、子ども自身にどうするかを考えてもらうことが必要です。子どもが自分で考えることが難しいようなときでも、ゆっくりと子どもの話を聴いてあげると、子どもはさまざまのことに気がついて、自分で決めることができるようになるかもしれません。

4, 子どもを援助しよう

人間は一人で生きていくことはできません。いつでも誰かの手助けがないと生きていけないのです。子どももそうですし、大人もそうです。ですから、親は子どもを援助しなければなりません。もちろん、子どもも親を援助してくれます。そうして助け合って生きるのが家族なのです。子どもを支配するのではなく、子どもに服従するのではなく、対等の仲間として子どもを援助して暮らしたいと思われませんか？